

2020年8月17日（8月20日訂正）

株式会社住環境計画研究所

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大及びその防止に伴う 家庭のエネルギー消費への影響分析（第二報）

株式会社 住環境計画研究所（代表取締役会長：中上英俊、東京都千代田区紀尾井町 3-29 紀尾井町アークビル 3 階）では、総務省統計局の家計調査（二人以上の世帯）の結果^{出典¹}を用いて、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大及びその防止に伴う家庭のエネルギー消費への影響を分析いたしました。本報告では、4～6 月四半期のデータを分析した結果をご報告いたします。本報告でのポイントは下記の 2 点です。

ポイント 1：4～6 月四半期の世帯当たりのエネルギー消費量は 9.09GJ で前年同期間比 3.2%増加

ポイント 2：4～6 月四半期の世帯当たりの光熱費は前年同期間比で実質 2.2%増加

詳細は下記をご参照ください。

ポイント 1：4～6 月四半期の世帯当たりのエネルギー消費量は 9.09GJ で前年同期間比 3.2%増加

- 4～6 月四半期の世帯当たりの電気・都市ガス・プロパンガス・灯油を合計したエネルギー消費量^{1,2}は、全国で 9.09GJ で、2019 年同期間 8.81GJ から 0.28GJ 増加（+3.2%）となっています。そのうち電気の消費量は 4.27GJ で、2019 年の 4.16GJ から 0.11GJ 増加（+2.6%）となっています。（図 1）
- 気温の影響について分析した結果では、増加分 0.28GJ のうちの約 3 割が気温要因、残りの約 7 割（0.2GJ）は気温以外の要因となります。
- 2020 年 4 月～6 月は政府からの緊急事態宣言発令期間を含んでおり、新型コロナウイルスの感染拡大及びそれに伴う外出自粛等の影響が最も現れている期間と言えます。このことは、エネルギー消費量増加の主要因となっている可能性があります。

ポイント 2：4～6 月四半期の世帯当たりの光熱費は前年同期間比で実質 2.2%増加

- 4～6 月四半期の世帯当たりの電気・都市ガス・プロパンガス・灯油の支払金額（光熱費）の合計を前年同期間と比較すると、2019 年の 50,247 円から 49,902 円と 345 円減少（-0.7%）しています。（図 2）
- 一方で、エネルギー価格変動の影響を考慮した前年同期間比の実質増減率³（図 2）をみると、2020 年は +2.2%（+1,110 円）となりました。これより、光熱費が前年同期間比で減少したのは、エネルギー価格の低下によるものと考えられます。
- 光熱費が消費支出に占める割合は 2019 年の 5.7%から 6.3%と 0.6 ポイント増加しています。この増加には、消費支出の大幅な減少が影響しています。（図 3）

¹ エネルギー種別の発熱量は資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量・炭素排出係数(2018 年度改訂)」(2020 年 1 月) の値を適用しました。

² 都市ガスはガス事業生産動態統計調査（資源エネルギー庁）の四半期報から単価を算出し、購入数量を推計しました。

³ 実質増減率は名目増減率と当該品目の消費者物価指数の変化率を用いて算出しました。

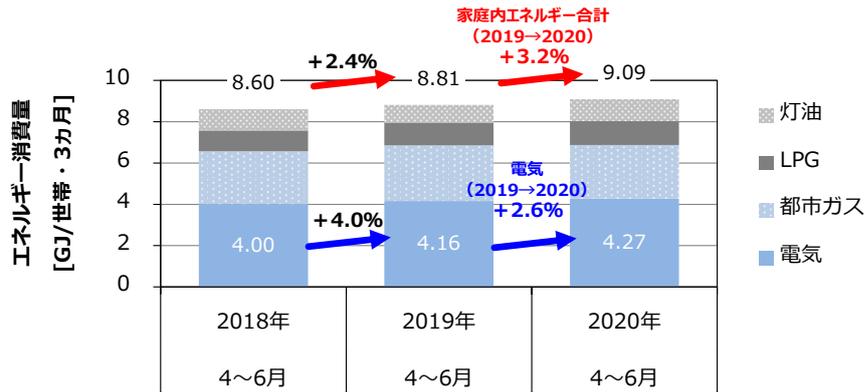


図 1 家庭のエネルギー消費量（電気・ガス・灯油の合計）の前年同期間比較 出典 1)

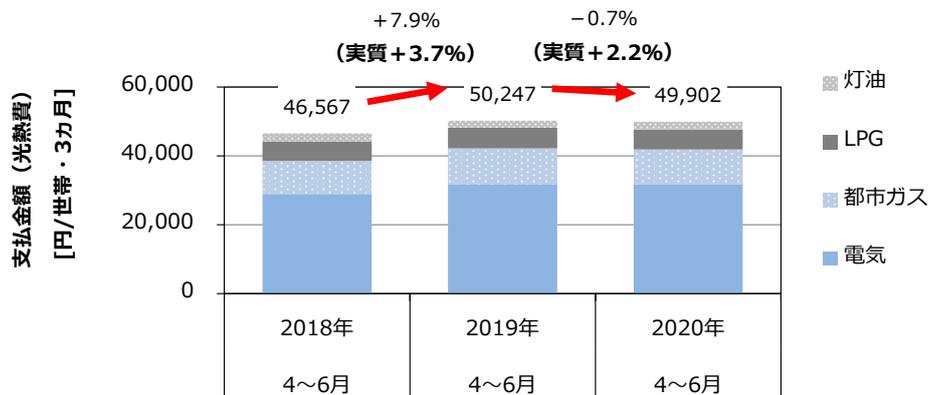


図 2 支払金額（電気・ガス・灯油の合計）の前年同期間比較 出典 1)

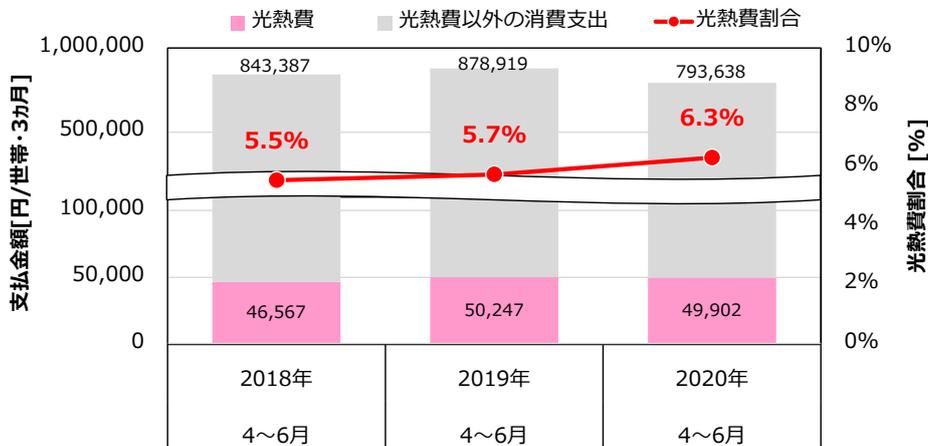


図 3 光熱費（電気・ガス・灯油の合計）、消費支出、及び、光熱費が消費支出に占める割合 出典 1)

〈出典〉

- 「家計調査結果」（総務省統計局）(<https://www.stat.go.jp/data/kakei/index3.html>) の 2018 年～2020 年の 4 月～6 月の電気・都市ガス・プロパンガス・灯油の支払金額・購入数量及び、消費支出を用いて作成しました。

以上

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社 住環境計画研究所 担当：岡本・高山・小林 Tel：03-3234-1177 E-mail：web@jyuri.co.jp

(訂正) 2020年8月20日

2020年8月17日公表のプレスリリースに一部、数値の記載ミスがございましたので、訂正致しました。大変失礼致しました。訂正箇所は下記の通りです。

図2中の2018年から2019年の光熱費の増加率 (誤) +4.2% (正) +7.9%